

芝居屋杜川リントロウでは、他にも各種生演奏による音楽劇・ミュージカルを多数上演しています。



他作平上演例

「人が人を信じる事」とは一体どういうことなのか…
太宰の葛藤は、メロスの葛藤。

音楽劇 一人で演じる走れメロス

構成・演出・出演 杜川リントロウ / 音楽 小塚憲二 / 演奏 つつみあつき

上演時間：トータル90分
公演条件は「仏典童話」とほぼ同じ。
小規模公演ながら全国各地で既に一万人以上の観客の前で上演。ぜひこちらもご検討ください。

WEBSITEにて公演動画や詳細公開中

正真正銘の一人きりでの個人出張公演から大規模ミュージカルまで、依頼先まで伺います。公演場所はホールや体育館はもちろん、公民館や会議室、お寺に店舗に路上までどこでもOK。上演実績も年間100ステージと多数、メディア実績も多数。上演予算も、下は子ども会や小規模イベントでの個人出張1万円台から上は大劇場での本格ミュージカル100万円以上と公演先の条件と要望に合わせてピッタリの演目を多数ご用意。生演奏の本格音楽劇は5万円から。ミュージカルも10万円から！困ったら「なんかやって」でOKです！ぜひ各種イベント・鑑賞会などでお呼びください。その他、指導や市民参加ミュージカル企画・上演まで各種OK。



2017年11月17日 中日新聞より(写真は実際の公演)



ワークショップの様子



音楽劇「裸の王様」(©ちりゅう芸術創造協会)

詳細は直接お問い合わせ、またはウェブサイトまで！



杜川リントロウ 全国的にも珍しい、個人で活動する「プロの芝居屋」。

依頼があれば全国各地どこでも伺い、子ども会や各種学校・公共施設はもちろん、大ホールから道端まで場所を問わず各種出張公演やミュージカルを上演中。平成15年度、文化庁新進芸術家公演事業「ねこはしる」(俳優館)出演。平成18～21年度、文化庁本物の舞台芸術体験事業「ねこはしる」(俳優館)出演。平成20年度、瀬戸市役所瀬戸蔵の司会、平成20～21年度、瀬戸市等主催の総合芸術祭「奏・創・そう」総合制作/総合広報。平成22年度、大須大道町人祭ローピング部門「享保之象」出演。平成23～28年度、椋山女学園大学「ケースメソッド」(渡邊康教授)ミュージカル講師。平成24年度、文化庁事業・パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)芸術家派遣事業「知立市内幼稚園小中学校巡回事業」選考、選考団体中最多公演選出。平成25年度、事務所兼劇場として小劇場「PICO」をオープン。のち、「PICO2」と改め大曾根に移転。

同年、「新しいうたを創る会」第8回名古屋初演演奏会」演出。(あいとりエンターパートナーシップ事業、愛知県芸術文化選奨文化新人団体賞受賞)

平成27年度、市民参加型ミュージカル「不思議の国のピーター・パン」演出・出演・上演。(名古屋市東文化小劇場＝名古屋市文化振興事業団共催事業)

平成29年度、尾張旭市文化会館自主文化事業(共催：尾張旭市/尾張旭市教育委員会)市民参加ミュージカル「リバーサンド・ストーリー」作・演出・出演。

本格的な音楽劇を、全国いつでもどこへでも。

しばいやもりかわりんたろうしゅっちょこうえん

芝居屋杜川リントロウ出張公演

お問い合わせ：直通TEL **090-1291-1603** / FAX **020-4669-8679**

※不在の場合はお気軽にメッセージをお残し下さい。折り返しお電話差し上げます。



ウェブサイト→<http://m-rintaro.jimdo.com/>

t2197359@gmail.com / t2197359@outlook.com

〒462-0810 名古屋市北区山田1-1-43 PICO2 芝居屋杜川リントロウ公演事務所



＜役者＋生演奏＞
の2名編成より、
上演料は5万円から

生演奏の音楽劇で綴る

仏典童話

大昔のインドの物語

「猿の橋」
「老人を捨てる国」
ほか

原典 仏典童話より
音楽 小塚憲二
構成・演出 杜川リントロウ
演奏 つつみあつき(クラリネット)
出演 杜川リントロウ

大曾根総合駅より徒歩3分に事務所あり
芝居屋杜川リントロウ
名古屋市北区山田1-1-43
TEL 090-1291-1603

会場は問わず、
上演時間は約60分

ごあいさつ

「仏典童話」というとあまり耳慣れない、なにやら難しそうな響きです。どういふものと調べると、インドの昔話を下敷きにした「お釈迦様の前世譚」。ある時は老人だったり、ある時は猿だったり。とにかくたくさんのお釈迦様の前世が現れます。その数、パーリ語聖典ではなんと573の物語。つまり573人ものお釈迦様の前世が登場するわけで、一回あたりの人生が平均20年と考えても、これはなかなか気が遠くなるようなお話です。

お釈迦様の前世たちはそこで様々な出来事に遭い、誰かを救ったり改心させたりして善行を積んでゆきます。それを繰り返してついにはお釈迦様（ガウタマ・シッダータ）として生まれてくるわけですが、物語の中で描かれている内容は現代でも沢山の教訓や示唆を与えてくれるものばかり。

実は、この「仏典童話」は現代に伝わる様々な物語の原型になっています。イソップ物語やアラビアン・ナイト、さらには日本の今昔物語や宇治拾遺物語などに大きな影響を与え、今でも知らず知らずのうちに読み継がれて「あれ、聞いたことがあるぞ?」というお話ばかり。今回取り上げる2作品も、観てみるとどこかで聞いたことがある人も多いかと思えます。

「えっ、この話はこんな昔からあるの?」それはつまり、人間の大切な部分は昔から変わっていないあかしです。2300年以上の時を経て、私たちが歌と生演奏とお芝居で綴る音楽劇「仏典童話」。私たちが生きる上での普遍的な気づきに、子供は出会い、大人は思い出す。そのきっかけになれば幸いです。

演奏者紹介



つつみあつき(クラリネット奏者)
オーストリア国立ウィーン舞台芸術大学演奏学科 クラリネットシュミーデル教授クラスに留学。
同音楽大学教授会全会一致最優秀ディプロマ賞を受賞。
ウィーン・ライモンド歌劇場首席奏者、リゲティ木管五重奏団メンバーとして活躍の後、帰国。
ウィーンフィル日本公演に賛助出演。NHKFM「フレッシュコンサート」「名曲リサイタル」全国放送に出演。
小松孝文教授、シュミーデル教授、エールベルガー教授(室内楽)の各氏に師事。
2006年より「つつみあつき・クラリネット・コンサート」を連続開催中、(財)愛銀教育財団より文化活動助成を受ける。
音楽劇、ミュージカル、バレエを取り入れた独創的な演奏会に取り組むなど多岐に渡って活躍中。
日本演奏連盟会員。ムジカセラミカ振興会演奏者会員。モック木管五重奏団代表。JWE楽長。
TSM主宰。JWE吹奏楽団楽長。MiA、HessenTrioメンバー。平成25年度名古屋市芸術奨励賞を受賞。

公演条件など

上演時間 「老人を捨てる国」「猿の橋」2作品ともに20分強(通常、全体で45分~60分構成)
最小編成人数 2名(役者1、演奏者1)より可 ※但し小規模のみ、音響照明はすべて持ち込みます。
対象年齢 小学生/中学生/大人
会場条件 準備1時間より。会場問わず。

最低上演料金 5万円より。規模と条件によっては交通費やスタッフ費など必要。応相談。
各種学校の場合、通常は人数×864円。(例)近隣小学校で生徒数80名の場合:864円×80=69120円
ホール等の企画公演の場合は20万円以上(ピアニストやスタッフの追加料金など含む)。
予算によってはピアニスト等の追加も可能です。どうぞご相談ください。 <2018年8月初演>

**上演の際は、ワークショップや楽器紹介を絡めながら進行します。
学校対象の場合、低学年と高学年とで作品を分ける事も可能です。**

上演構成例 A (1作品ずつ別々に上演)
はじめましてのご挨拶 5分
仏典童話の紹介とクイズと小作品 10分
演奏でインドを感じよう! 10分
ワークショップ「大声競争」 10分
音楽劇「老人を捨てる国」or「猿の橋」 25分
<60分構成>

上演構成例 B (本編のみ2作品同時上演)
はじめましてのご挨拶 5分
音楽劇「老人を捨てる国」 25分
演奏でインドを感じよう! 5分
音楽劇「猿の橋」 25分
<60分構成>

大切な事は、大昔から変わらない。

老人を捨てる国



むかし、インドのとある国はとても貧しく、「60歳以上になった親は捨てなければいけない」という法律がありました。でも、ある男はどうしてもお父さんを捨てることができず、家に連れ帰り匿ってしまいます。それからしばらくして、その国の王様の元へ隣の大きな国から手紙が届きました。「見た目は全く同じの二頭の馬のどちらが親でどちらが子供か、それを答えよ。答えられなければこの国は攻め滅ぼす。」国中が大騒ぎになりましたが、答えられる者は誰一人おりません。

「もうダメです、お父さん。」 嘆く男にお父さんが口を開きます。「それは簡単じゃよ、こうすればよいのじゃ。」 答えはあっさり解けました。男はお父さんの代わりにお城へ行って答えを告げ、王様と一緒に喜びました。それからすぐに次の質問が届くのですが、その質問もお父さんはあつという間に答えてしまいます。ついに隣の国からは、「この三問目を解く事ができたら、滅ぼすのはやめることにする」という手紙が届きました。もちろん三問目もあっさり解いてしまうお父さん。王様は言います、「どんな褒美でもあたえてやるぞ!」そこで男は意を決して申し出ます。「実は、答えていたのは私のお父さんです。どうか王様、この国を老人になっても生きられる国に変えてください。」

長野県には「姨捨」という風光明媚な場所があり、そこにも似たような昔話が残っています。年を取るという事は、決して役に立たなくなるという事ではない。それどころか、知識と経験が増えるということ。本格的な高齢化社会を迎えつつある現代にも通じる物語を、軽快な音楽劇でお届けします。

**歌だけでも、なんと14曲。
BGMも含めれば演奏時間は30分以上!
生演奏の曲と歌とで、仏典童話の世界へと誘います。**

猿の橋

ある国に、とてもケチな王様がいました。自分の好きなものは全部自分だけでひとりじめしてしまう王様でした。その年は日照りが続き国民はみな飢えていましたが、自分の好物であるお城の果樹園のくだものを国民に分け与えようとは絶対にしませんでした。「わしのくだものを盗んだ者は絶対に許さんからな!」その頃、山に住む猿たちも食べるものが無くて困っていました。どんなに探しても何も見つからず、このままで飢え死にをまつばかり…そこで猿の王様は考えました。「そうだ、お城の果樹園には美味しいくだものが沢山実ってるぞ!」

お城の果樹園に着いた猿たちは、くだものをお腹いっぱい食べました。ところが王様に見つかってしまいます。「まさか猿がわしのくだものを… 追え! 捕まえろ! そして死刑にするのじゃ!」逃げる猿たちですが、谷にかかっていたはずの橋が壊れており、渡れず、追い詰められてしまいます。そこで猿の王様は叫びます。「いいかみんな、この私の身体を橋にして、踏み越えて、向こう岸へと渡るのだ! さあ、早く!」猿の王様のおかげで他の猿たちは助かりました。しかし猿の王様は、傷つき、力尽き、谷底へと落ちてゆきました…その様子を見た人間の王様はすぐに谷底に降り、虫の息になった猿の王様を探し出して問いかけます。「なぜじゃ、なぜお前は自分を橋にしたのじゃ!? なぜ自分を犠牲にしたのじゃ!? お前一人だけなら助かったろうに…」猿の王様は答えます。「人間の王様… だって、私も王様なんですから… それが王様なんですから…」

自分のものを誰かに分けるということは案外難しいもの。それが好きなものならなおさらです。この王様は、猿の王様の行動を見て初めて「分ける」ということの大切さに気付きます。後半からは息もつかせぬ迫力の歌と演技で最後まで演じあげます。

